

# CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2012年2月21日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒732-0811 広島市南区段原2-15-5 <http://www.chuoh-kyouiku.co.jp/>



## 感情の論理 vol.60 「事前準備の重要性」

私の失敗談をお伝えします。先日、とある塾さんの保護者セミナーで講演を行いました。テーマは「生きる力の尻尾を掴め!」です。笑いあり涙ありの渾身の講演?と自画自賛していたのですが、後日、塾長から緊急のメールとFAXが届きました。

たった今、昨日の講演会に出席されたお母さんの娘(高校3年生)が塾に来まして、お母さんから預かってきたこの手紙を受け取りました。そのままFAXします。

実は私も森先生が講演中に「この中にシングルマザーは…」と言われたときは驚きました…。対応をどうしようか…、と思索しています。助けてください。

塾長の狼狽振りが分かります。同時に届いたFAXには参加した母親からの感想文が載っています。

(前略) 森先生が「この中にシングルマザーはいない」と言われた根拠は分かりませんが、私はシングルマザーです。一人親だからこそ頑張っている人がいることを知ってほしいと思います。今時、シングルマザーは珍しくもなく、全国で講演されている先生とも思えない物言いです。(要約)

不審に思った私は、録音を聞き直してみました。私はこう述べています。父親の教育参加が重要なことを伝えた後に…

…こういった会にはほとんどお母さんしか来ないんです。父親が来ない。まさかと思いますが、ここにいる方みなさんがシングルマザーということはないですね。…

この通りです。何度聞いても「この中にシングルマザーはいませんよね」という意味で使っていません。一人も父親の姿が見えないことを不思議に思っている(実際は不思議でも何でもないのですが)例えとして使っているだけです。どうも、「シン

グルマザー」という言葉に過敏に反応したようです。

一般論としてお話ししますが、執筆と違い講演は校正が出来ません。ですから、失言を取り消すことも出来ません。それを前提としていますので、本来、多少の失言は寛容の精神で受け止めてほしいと切に願っています。失言を恐れている、原稿を棒読みするだけの「つまらない、心に響かない話」しか出来なくなります。

もちろん、失言をしない努力を話し手としてはしなければならぬのですが、プロ野球の選手でもエラーをするのと同じだとご容赦ください。

今回の場合、「シングルマザーだからこそ頑張っている女性も多いことを承知しておいていただきたい」ということですが、私は講演の中で自分の母親が若くしてシングルマザーになり、苦労して私を育ててくれたことを話しましたし、充分承知しているつもりです。それが伝わっていないことを残念に思うと同時に、自らの話術の拙さを痛感します。

ただ、私を含め、全ての塾人とシェアしなければならない重要な課題があります。今回の講演テーマは私にとって新しいことではなく、そのため、事前の準備(シミュレーション)が充分でなかったのではないかと反省をしています。中には「言葉」に過敏反応する方もいらっしゃる。「シングルマザー」という心の機微に触れる言葉をチョイスしたのが適切だったかどうか…。

以前、某大手塾の若手教師が、保護者会で5分間のスピーチをするために数時間の研修を受けていたことを思い出します。これから新年度に向けて、保護者会を実施する塾は多いと思います。場当たり的にならず、事前準備をしっかりとっておきたいものです。可能ならば、スタッフ間で、個人塾ならご家族の協力を得て予行演習を実施しましょう。

「感情の論理」を提唱している私が、参加者の感情に対する配慮が欠けた事例です。私も一つ、学ぶことができました。今後はより良い講演を提供できると思います。

### ■大いなる勘違い

—経営が順調のようですが、人的な面での変化はありますか？

「震災前から塾業界を含めて地域経済の硬直化と景気低迷が目立っていましたが、震災後はさらに深刻な状況となりました。少し広い地域で捉えれば、かなり厳しい経営を強いられている中小個人塾が多く、同じ教育サービスに従事する仲間として、できるだけ助け合う方向で会合を持つようにしてきました。これは、公開のものもあるし非公開の極めて個人的なものもありますが、その中で、どうしても塾として存続できなくなった場合には、マネージメント力や指導力のある人材を我々の仲間の誰かが引き取ることにしているのです。

ただ・・・塾長をしていたり幹部をしていたりした人の中には勘違いをする人もいるので注意や配慮が必要です。引き取った塾の後継者として選ばれたのだとか、そのまま大幹部や役職になれると安易に考えてしまうらしいのです。これはあり得ない話で、もう少し自戒というか身の程を知ってもらいたいですね」

### ■様々な混乱を見てきた二十年

—業界は、これまでと今後でどのように違っていのでしょうか？

「過去二十年間業界の様々な混乱と人間模様を見てきましたが、皆さん高齢になってもしぶとい・・・流石というほかありません。私ももう引退を考えていましたが、皆さんを見て、あと十年はやってみようという意欲が湧いてきている今日このごろです。何がきっかけで活力が蘇るかわからないものですね。

高齢になっても経営の第一線から退かないで頑張っておられる大手塾や中堅塾の場合、ほとんどが現状維持、もしくはちょっとだけ減退しただけという状態です。これだけ厳しい経済状況の中、それは尊敬すべきことです。早めに継承したから何か良いことがあるかと言えば、ほとんどの場合あまり無いのが普通のようなのですから。

さて、二十年の間業界の様子を見つつ、自分たちのやるべ

き仕事について考え、そして改善してきましたが、これがなかなか進化しません。色々なツールをアウトソーシングできたリデジタル化で効率よくなったりしていると言われますが、もしかすると堂々巡りしている部分もかなりあるのかもしれない。王道というか正攻法がまだ通用するのではないかと私は思います。特に個別ブームが去りつつある今、集団指導に少し回帰現象が見受けられるのは当塾だけでしょうか。指導ではなく刺激の場としての塾が見直されるべきなのかもしれません。今後発展していく新しい塾はそういったことを具現化できる塾なのではないでしょうか」

### ■残った人たちで決めればいい

—もし、この十年間に経営を継承するとしたら、どのような形になりますか。

「そうですね・・・端的には言ってしまえば『残った人たちで決めなさい』ということになります。『老兵は消え行くのみ』と言ったマッカーサーではありませんが、会社を去っていく者に何か言い残す資格などありませんから。

ただ・・・時代の大きなうねりは予想をはるかに超えて襲ってくると思うので、くれぐれもそれを侮ってはいけません」

**金無し、モノ無し、人無し・・・**

無い無い尽くしの W 塾の塾長は「何も無いので、極端な話、塾の三大経費が無くて楽にやれますよ、生徒さえ集まればね・・・」と語ります。大手塾をいくつか渡り歩いてきた彼は、主として個別指導本部を立ち上げ、ノウハウと規格統一された設備や教材を、契約した FC に販売していく仕事をこなしてきました。

「裏表なく話をして相手を納得させることにかけては自信がありますが、それは営業力、販売力であり、これから僕が求めたいのは教務力なのですよ・・・でも普通の教務力じゃあないのですよ」

全国のあらゆる形態、あらゆる規模の塾を見尽くしてきた彼にとって、誰もやっていない指導内容の塾は自分の理想の一つであり、ずっと心のどこかに引っかかってきたのだ。

「決定的な差別化、それが今後新たにスタートする塾には必要不可欠なものだと思うのです。さて、問題はその差別化なのですよねえ・・・」

**教えない塾への挑戦**

彼が考える決定的な差別化とは「教えないこと」だといいます。学校はカリキュラムに沿って教科書の内容を教えますが、塾が同じことをする必要はなく、むしろ本人が自分のすべき内容について復習したり予習したり、あるいは繰り返し演習したりする、それを見届ける指導員が一人いれば、指導員一人に生徒が何人でも可能だという考え方なのです。

「可能だとしても、従来の個別指導の形態と同じ土俵で、一対一や一対二と比べられてしまうのは心外です。そうではなく、これまでとは全く別の教務を確立している塾なのだということを作りたいのです」

彼の言う「差別化された個別指導塾」とは、つまり生徒がちゃんと勉強をやる様子をコーチが確認して回るトレーニングルームのようなものである。

「そのようなことのできるマネージャー兼コーチを養成するわけでは

なく、僕が求めているのは、誰でもできる仕組みなのです。つまりマニュアルさえ確立されていれば、それに従って誰でもできる、だから全国的に一気に広まっていく・・・それが理想です」

**次の時代への意外な「突破口」とは？**

人件費を節約し効率よく生徒に学習させるためのデジタル化が進行中だが、彼の考えるような「教えない塾」が他塾との差別化に成功して拡大されれば、多大な投資をしてデジタル化を図らなくても、つまり個人塾でも大手塾に対抗して生き残ることができるはずである。

「そういう個人でできるだけ沢山の生徒の面倒を見てあげたい、できる限り多くの生徒のやる気や潜在能力を引き出したいと考えている FC オーナー予備軍の方のために、早くこの仕組みを成熟させたいのです」

最近のデジタル技術を活用しなくても時代の大きなうねりに対抗して生き残る新たな教育サービスの可能性が、数年内に見えてくるかもしれない。

## 第12回 中学校の新しい学習指導要領～社会～・高校の新しい学習指導要領について

2月中旬を過ぎ、入試シーズンはいよいよ佳境を迎えています。一方で、新年度募集も始まり、塾関係者に至ってはご多忙な日々を過ごされていると思います。インフルエンザや風邪が流行っているので、どうか体調には十分お気をつけ下さい。

さて、先日、文部科学省から『公立と私立の学習費総額』について調査結果が発表されました。この調査は平成6年から隔年で実施されており、公立の幼小中高校に通う子どもを持つ保護者を対象に、教育にかかった費用（授業料・学習塾や習い事など含む）を尋ね、約23,000人からの回答をまとめたものです。

## &lt;幼稚園から高校までの15年間の平均学習総額&gt;

幼小中高すべて公立：509万円

幼だけ私立・小中高は公立：599万円

幼小中は公立・高だけ私立：662万円

幼高は私立・小中は公立：757万円

小だけ公立・幼中高は私立：1003万円

幼小中高すべて私立：1702万円

子どもを私立小学校に通わせる保護者は高所得層に多く見られ、年収1000万円以上の世帯が58.3%もあります。保護者が高所得でないと私立に通学できないという構図が顕著に表れています。

学習塾にかかる費用に関しては、公立でも高校受験を控えた中3生は、年間約32万以上かかっており、不況でも子どもの養育費はやはり割れないという保護者の心情が浮き彫りになりました。

ちなみに中学入試を行った家庭では、小4で平均30万、小5で平均42万、小6で平均49万となっており、中3生よりも多くの学習塾費用をかけていることがわかりました。

この結果は幼稚園から高校までなので、これに大学の授業料や予備校費用をあわせると、最大で2000万は超えます。子ども一人を育てるのは本当に大変なことだと思います…。

さて、今回は中学社会の新しい学習指導要領についてです。今回の改訂で社会はあまり注目されていませんが、採用される教科書会社自体から大きく変わった教科書です。

## &lt;中学社会教科書採択会社&gt;

地理：東京書籍・帝国書院・日本文教出版（旧大阪書籍）・

教育出版の4社

歴史と公民：東京書籍・帝国書院・日本文教出版・教育出版・

清水書院・自由社・育鵬社（旧扶桑社）の7社

地域によっては採択そのものが変わってしまう可能性もありますので、お気をつけ下さい。ニュースでも放送されていましたが、育鵬社の掲載内容についてはいろいろと問題が発生しているようです…。

学習内容について、大きく変わった点をまとめます。

## &lt;地理&gt;

- ・北海道から九州までの7地方別の学習が新設。より詳細な地域の学習が必要。
- ・地図の学習量が増加。世界の国旗や首都など地図に関する知識の学習が必要。白地図は必須。

## &lt;歴史&gt;

- ・時代のつながりを意識した歴史の流れを学習。
- ・近代では「政権交代」など民主党よりの表現が目立つ。
- ・キーワードや要点をまとめ、発表する授業が増加。

## &lt;公民&gt;

- ・裁判員制度について、より深い学習が追加。推理小説仕立てのシュミレーションも。
- ・「掃除当番をどう決めるか」など身近な問題から、社会生活を見る目を養う項目もある。

中学社会の改訂を一言でまとめると…「暗記の増加」と「記述の増加」です。覚える項目が格段に増加するだけでなく、文章表現での解答が求められる問題も増加しています。

また、分量が全体的に増加したので、学校の授業は例年よりもスピードアップしていくはずですが、特に公立中学3年生の授業は、歴史後半と公民をすべて行わなければいけないので、相当詰めた教育になるでしょう。学習塾としては、秋までにある程度のメドを計画しておく必要があります。公民の学習がぎりぎりにならないように気をつけるといいと思います。

これで中学の新しい学習指導要領についての説明は以上となります。少しでも参考になっていただければ幸いです。

今後の改訂スケジュールとしては、来年に高校の教科書がすべて変わります。高校数学についてはすでに移行措置が始まっており、今年の4月に新しい教科書が発表されます。それ以外の教科は今年中に作成され、来年4月から使用が始まります。小中学校が大きく変わった影響で、学習内容に多少の変動がありますが、小中学校ほどの混乱はないと考えられます。

全体を通して…新しい学習指導要領は「脱ゆとり」をあげていますが、その成果が出てくるのは果たして何年後なのでしょう…。現在、20代のほとんどはゆとり教育世代です。私もたまたま大学生の就職活動支援を行っています、いろいろな問題を肌で感じています。

・自分から進んで学ぼうとする意欲の欠如

・自分のことが分からない

・目上の人に対する畏敬の欠如

・危機感や責任感の欠落

などなど、いくらでも出てきます。

これからの日本を背負う若者たちにぜひ希望を与えるような教育現場であってほしいと、心から願います。

一年間書かせていただきましたメルマガは今回で最後となります。いつも長い文章を拝読していただき、心より感謝申し上げます。もしどこかでお会いできたときはご遠慮なくお声をいただければ嬉しく思います。